

機器分析センターこの一年

機器分析センター長 飯石 一 明

機器分析センターが設置されて、5年が経過しました。センター棟（3R, 1154㎡）が平成8年3月25日に竣工しました。夏季休暇には装置の搬入も完了し、9月25日にセンター棟竣工記念式典及び祝賀会を挙げて行いました。センターもいよいよ本格的な活動を開始したことになります。皆様方への感謝の気持ちをこめ、ここに、この一年を振り返り機器分析センター報告第5号をお届けします。

センター棟が竣工すると早速、一般設備費で購入された透過型電子顕微鏡（フィリップス製：CM120, 理学部山岡教授担当）と科研費A（理学部地球科学の白木教授）で購入された蛍光X線分析装置（理学電機工業株式会社製：理学/RIX3000）を搬入、稼動を開始しました。夏季休暇にはいると、単結晶自動X線回折装置、動的構造解析装置、オフセンター型極低温4軸回折装置、電子線マイクロアナライザ、等の大型装置も搬入して稼動を開始しました。

6月4日には学長ヒアリングがありました。今年度は新学長の廣中先生が各施設の現状と将来構想についてじっくり聞きたいということで30分にわたってヒアリングされました。センターとしては建物という大きな要求が満たされた直後でありましたが、現状における問題点や将来のセンターのあり方についての構想を述べました。

7月15日の運営委員会において、平成7年度の決算報告と平成8年度の予算や広報活動について審議をお願いしました。本年度のセンター予算は約1520万円程度で、その内訳は約800万円が特殊装置維持費で、残りの720万円程度が附属施設経費等です。今年度からはセンター棟が完成しましたのでそれに伴って空調など光熱水料費に対する出費が増加することが予測されますが、各装置の責任者と相談しながら、運営に気を配っていくつもりですので、ご意見やお気づきの点がございましたら、各学部の運営委員の先生あるいは直接センター（センター教官室：内線5772, e-mail: nagao@sci.yamaguchi-u.ac.jp あるいはセン

ター事務室：内線5773, e-mail: morifuku@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp）にご連絡下さい。

9月25日には、機器分析棟竣工記念式典及び祝賀会を開催して完成を祝いました。式典は、廣中学長、村上前学長、富永県企業局公営管理者、加屋野理学部長、千葉前理学部長、峯本神戸大学機器分析センター長等学内外からの関係者約100名の出席のもとに学生会館で開催されました。学長とセンター長の挨拶をこの号に掲載しています。式典後、施設見学と学生会館レストランにおいて祝賀会が開催されました。大変盛会だったことに対し、皆様方のご協力に心からお礼を申し上げます。

平成4年度にセンターが設置されて以来、特別設備費で“電子線マイクロアナライザ”や“動的構造解析装置”が導入され、研究成果が学会発表や学術雑誌に報告されていますが、本年度は一般設備費で強力X線発生装置（18kW）が導入されました。

毎年の「機器分析センターこの一年」でご報告していますように、センターも少しずつ充実しています。センターが設置されて5年目になりましたので、この号には、各主要装置につきまして、1992年4月から1996年12月までに公表された論文のうち20編以内を紹介いたしました。

さらに、機器分析センターの最新情報を流すためにホームページを開設しました。永尾先生と森福さんの力作です。詳しくは山口大学のホームページをご覧くださいと思います。ホームページの一部をこの号の表紙に致しました。

平成9年度はセンター棟の完成にともない、いよいよ本格的にセンターとしての役割を果たすことが可能になりました。この節目の時に私はセンター長を辞任することになりました。2期半5年にわたり皆様方のご支援によりまして何とか務めを果たすことができました。心からお礼を申し上げます。ちょうど潮時といえると思うのですが、次期センター長のもとにセンターが飛躍することを確信いたしています。どうもありがとうございました。